

令和4年度 高鍋町立高鍋東小学校 学校評価書（自己評価）4段階評価 【 A・・・よい B・・・概ねよい C・・・あまりよくない D・・・わるい 】

教育目標	高い志をもち、自らを律して、力強く生きる児童を育成する。			
目指す学校像 目指す児童像 目指す教職員像	○ 知性を磨く学校（力いっぱい） ○ 自ら学び深く考える子ども（かしこく） ○ 自ら学び、子どもと共に高まる教職員	○ 明るく楽しい学校（笑顔いっぱい） ○ 礼儀正しく思いやりのある子ども（やさしく） ○ 創意工夫して指導を充実する教職員	○ 活気がある学校（元気いっぱい） ○ ねばり強く 元気な子ども（たくましく） ○ 積極的にコミュニケーションを図り、協働する教職員	
本年度の重点（教育的課題）	1 学力の向上＝教師の授業力アップ	2 心の教育の充実 明倫四徳「仁・義・礼・智」の意識化と実践	3 生命尊重と健康管理能力の向上	4 全職員で協働しながら取り組む特別支援教育

評価項目	方 策 ・ 手 立 て	評 価 指 標	自 己 評 価			学校運営協議会委員評価																				
			指標別	総合	結果の考察・分析	改善策等	コメント	評価																		
高鍋町重点指導事項	<b>【知】</b> 授業改善 家庭学習習慣の定着 <b>【徳】</b> 基本的な生活習慣の定着 新明倫の教えの推奨 <b>【体】</b> 生活のリズムの確立 <b>【信頼される学校づくり】</b> 学校運営協議会の充実 幼保・小中高連携の推進	○ 授業力向上を目指した研究授業や研修を通して授業改善に努める。 ○ 家庭と連携し、各学年に応じた家庭学習を習慣化させる。 ○ 学校教育活動全般を通して率先した「あいさつ」・「返事」・「靴並べ」・「整理整頓」を体得させる。 ○ 「新明倫の教え」を機会あるごとに唱和すると共に集会等において関連する講話等を行う。 ○ 早寝・早起き・朝ご飯について、学校だよりや学級通信等で啓発する。 ○ 学校運営協議会のリーダーシップ、実務者会議の機動性の発揮、地域コーディネーターと連携した取組を行う。 ○ 学力向上や防災訓練、各種行事等における幼保・小・中・高等学校との更なる連携を図る。	○ 「わかる授業」をめざした教師の指導力の向上を図るため、研究授業を実施する。 ○ 発達段階に応じた家庭学習の習慣を確立する。（※ 1年30分～6年80分） ○ 日常生活の土台となる「あいさつ」・「返事」・「靴並べ」・「整理整頓」の習慣化を図る。 ○ 学校・家庭・地域において「新明倫の教え」を推進し、80%以上の児童生徒が暗誦できる。 ○ 早寝・早起き・朝ご飯の実践者（児童生徒・保護者）数を90%以上にする。 ○ 学校を地域や社会に開き、「地域の力」を学校経営に生かし、70%以上の児童生徒・保護者が十分実感できている。 ○ 幼保・小・中・高との連携の在り方を模索し、連携した行事等を5回以上実施する。	A	B	○ 重点支援校訪問や初期研修に関わる授業研究をとおして、実践することができた。 ○ 家庭学習の定着については、保護者・児童とも約80%が肯定的な評価をしている。一方で、定着が不十分な児童も見受けられる。 △ あいさつについては個人差があり、家庭での取組との連携が必要である。 △ 新明倫の教えの唱和の取組については、新型コロナウイルス感染症の影響で、2学期から取り組んだ。毎朝の全校放送で啓発し、金曜日に復唱している。 ○ 早寝・早起き・朝ご飯については、保護者・児童は80%台の概ね肯定的な評価であるが、90%に達していない。 ○ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対策を講じ講師として迎える活動は最小限度に制限して取り組んだ。 ○ 幼保・小・中・高と連携した行事についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できなかった。	授業改善 ・研究授業や相互参観授業アンケートの充実 ・生活習慣定着に係る保護者への啓発 ・あいさつ、礼法、整理整頓を重点的・継続的に指導 早寝・早起き・朝ご飯 ・早寝・早起き・朝ご飯やメディア利用についての学校保健委員会や通信による家庭への啓発 地域との連携 ・地域との連携による教育活動の推進と情報共有化 幼保小中高連携 ・合同研修会や合同行事の実施	・PDCAサイクルを意識して取り組んでいる。 ・子どもたちの意欲的な姿から、先生方の指導を感じ取られる。 ・コロナ後の活発な活動を望みます。 ・自主的にあいさつできる子どもが少ない。 ・登下校時のあいさつはかなり良くなっている。 ・地域との連携による児童との活動を積極的に取り組んで欲しい。	B																	
				○ 児童の学力向上＝教師の授業力向上 ○ 家庭学習や読書活動の推進と充実 ○ 全職員による特別支援教育の充実						・「東小授業スタンダード」の実践 ・個に応じた指導や習熟度別少人数指導で、たかねべ・みやざき学力調査の結果が全国平均を上回る。 ・学びの構え（チャイム黙想、姿勢、返事、聴く発表）を身に付けさせるとともに、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。 ・家庭読書（親子で読書）を年2回実施 ・児童の困り感に寄り添った特別支援体制構築、校内研修の実施（外部機関との連携） ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善 ・保護者の支援と関係機関との連携推進	A	B	○ 高鍋東小授業スタンダードの実践については職員の94%が肯定的に評価し、昨年度より7%向上している。 ○ 職員が連携して計画的に指導にあたり、2、6学年以外は平均を上回った。 ○ 学びの構えのチャイム黙想はほとんどの学級で定着している。一方、姿勢や返事、聴く態度は学級で差が見られる。 ○ 家庭読書を年2回実施し、貸出冊数年間で64,000冊を超えたが、昨年度より7,000冊減少している。 ○ 発達支援センターといった関係諸機関との連携を充実させることで、特別な配慮の必要な児童や保護者の実態に応じた支援が図られた。	個人差対応 ・担任の教科交換授業や課題別指導 ・授業における習熟の時間の確保 立腰指導 ・各学級での日常指導と校内放送等による意識化 家庭読書 ・年2回の重点的指導 特別支援教育 ・個に応じた支援の在り方に関わる研修	・ユニバーサルデザインの視点は全ての児童にとっても有効である。 ・豊かな心づくりや考える力を身に付けさせることから家庭読書の取組はよい。 ・町立図書館の利用促進を望む。 ・習熟度の遅い児童へ指導の徹底をお願いしたい。 ・図書において漫画で読めるものもあってよいのではないか。	B										
				○ いじめ不登校の未然防止と早期解決 ○ 自己決定の場を与える ○ 自己存在感を与える ○ 共感的な人間関係を育成する						・児童の自己実現への支援～生徒指導の3機能発揮と悩みアンケートや教育活動を毎月実施 ・学級活動、全校、学年集会活動、学校行事などで礼法指導や存在感・達成感を抱かせる場の設定と関わり ・朝のさわやかなあいさつとボランティア活動など奉仕・体験活動の推進で思いやりの心と人のために働く態度を養う。 ・新明倫の教えを毎週一度は唱和させる。	A						B	○ 生徒指導の3機能を生かした教育活動を目指している。また、悩みアンケートや教育相談により、いじめ不登校の未然防止等に務めた。 △ 思いやりの心と人のために働く態度を養うことについては、個人差があり、更なる指導や、奉仕・体験活動の推進が必要である。 ○ あいさつについても個人差があるが、徐々に進んで元気よくあいさつができる児童が増えている。	共感的な人間関係の育成 ・安心して自分を表現できる学級集団づくり ・特別活動の充実 ・奉仕活動の推進 ・PTA や地域ボランティアとの連携	・石井十次を題材にした道徳の授業を各学年してはどうか。 ・大人も挨拶の励行をするべきである。 ・ボランティア交流で児童が主体的に行動できるようになっている。	B					
				○ 基礎体力の向上 ○ 生命の尊重と健康教育の推進 ○ 心と体を豊かにする食育の推進						・新体力テストの結果の活用と実践、立腰指導、体育の時間における体力向上の指導の充実 ・危険予知トレーニング（KYT）実践で事故の未然防止に努める。 ・家庭と連携したアウトメディアの推進 ・お弁当の日の継続、朝食の重要性指導	B											B	△ 体力向上の指導については、新型コロナウイルス感染症の影響により教職員の肯定的評価が少なかった。 ○ KYT の研修等を通して、事故の未然防止の指導に努めた。 ○ ノーメディア日を年2回実施し、啓発資料を配付してアウトメディアの推進を図った。 ○ お弁当の日の取組は定着している。	体力づくりの推進 ・体育の時間での主運動の時間の確保 ・昼休みの外遊び推奨 ・KYT の研修等の継続 ・学校保健委員会等を通じたアウトメディアの更なる推進	・今以上に体力向上の指導をお願いしたい。 ・遠足を高鍋大師等の場所にしてはどうか。 ・お弁当の日の取組はすばらしい。	B

**【次年度の方針性についての校長所見】**  
 新明倫の教えや明倫四徳を基盤に据え、生徒指導の3機能を生かした教育活動の実践をとおして、礼儀正しく思いやりがある児童を育成する。また、授業改善や家庭学習の定着により、自ら学び深く考える児童を育成する。さらに、児童一人一人の体力や健康についての課題を把握し、その課題の解決を図る体力向上の指導や生活習慣の定着に努めながら、ねばり強く元気な児童を育成する。職員の働き方改革とのバランスを図りながら、全職員がそれぞれの役割を果たし、組織的に教育活動にあたるようにする。アフターコロナにおいて教育活動の精査に取り組み、保護者及び地域の様々な人材や企業などの力を生かしたコミュニティスクールとして成長するよう協働する。

